

令和5年度補正GFP大規模輸出産地生産基盤強化プロジェクト事例

(事業実施主体：静岡県かんしょ輸出促進協議会、品目：かんしょ)

課題

取組

成果

輸出向け品種の育苗対策

- ✓ 各生産者による設備投資や購入にかかるコストが課題

大規模育苗体制の構築

- ✓ ウイルスフリー苗を親株に用いて自ら育苗し、参画事業者へ採苗した苗を提供。

効率的な育苗体制への転換

- ✓ 他社から定植苗を仕入れた場合と比較して、資材費を約22%削減。

海外の旺盛な需要への対応

- ✓ 輸送コストの低減のため、輸送効率の向上が必要

生産者の負担を軽減するための

集荷サービスの提供

- ✓ 静岡県内や茨城県内の生産者に対し、輸送業者との年間契約の締結により物流網を構築

生産者負担の少ない流通への転換

- ✓ 外部業者に外注した場合と比較し、集荷コストを約50%削減
- ✓ (600kg/パレット→720kg/パレット)

厳寒期の着荷品質改善

- ✓ 厳寒期におけるロス率が高く、品質保持が課題

貯蔵環境の改善

- ✓ キュアリング処理※による厳寒期の品質保持を実証

品質保持の実現

- ✓ キュアリング処理により、従来約30%だったロス率を5～10%に低減



令和5年度

輸出額 約1.3億円

輸出量 約368トン

令和6年度（見込み）

輸出額 約1.7億円

輸出量 約425トン

※キュアリング処理：サツマイモを温度が30～33℃、湿度が90～95%の環境に4日間程度置くと、サツマイモの傷口にコルク層が形成され、そのコルク層が傷口からの腐敗菌の侵入を防ぎ、水分蒸散を抑えて長く貯蔵することができる。